

令和2年度 学校経営計画に対する中間報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1学期に実施した人数(教諭・講師30名) 2回以上 3人 (10%) 1回 10人 (33%) 0回 17人 (57%) 評価:	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等の取り組みを行ってきたが、2回以上実施した人数が3名(10%) (前年度同期の結果4名(13%))と低調な結果となった。1学期の授業日数は、休校のため35日(昨年度57日)になり、授業の進捗や日程的に厳しい部分もあり、満足のいく実施率となっていない。2学期以降は積極的に働きかけを行い更なる授業改善に向け取り組んでいきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A 47% B 43% C 9% D 1% 評価: A・B合わせて90%	AまたはBと答えた生徒の割合は、前年度同様90%となった。休校中の課題にしっかり取り組むことができたかと判断できる。しかし、学習状況アンケートより学習時間が1時間以下の生徒が約40%とかなり多い。今後も資格取得を含めた家庭学習の習慣化が成され、学力向上につながるよう働きかけを継続していきたい。
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的に行い、読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 33% B: 18% C: 22% D: 27% A・Bあわせて51%	AまたはBと答えた生徒の割合は、昨年同期の結果55%と比較すると4%の減少となった。図書委員会の日頃の活動もあるが、4月、5月と休校になっていたのが減少の理由ではないかと考えられる。また、全く利用していない生徒が27%(93名)と活動が十分浸透していない部分も多い。今後は、各教科にも協力をあおぎ、読書の習慣が身に付くよう継続して取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	8月末の資格・検定試験合格者数を検証 8月末現在では 71人 B評価(700人)に対する 達成率 10%	資格試験の中止または、延期の影響で大幅な減少となった。今後も工業科中心に受験の奨励や補習の充実を行い、目標の達成に向け取り組む。
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	前期(7月)の申請者数を検証 前期認定者数 0人 B評価(65人)に対する 達成率 0%	資格試験中止または、延期の影響で、前期は、2年生、3年生とも申請していない。後期に向けては、資格取得を奨励し、通年で認定者数の維持につなげたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 64% B: 32% C: 4% D: 0% 評価: A・Bあわせて96%	第1回学校評価アンケート(生徒)の結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、96%となった。昨年同期同様96%と高い結果となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で3年生の進路に対する指導が遅れぎみとなっていたが、現在は例年並みに戻っている。求人件数は、県外の求人(特にサービス業)が減ったものの本校生徒が希望する地元企業を中心に多くの求人を頂いている。 10月からの就職・進学試験に向けて適切な進路指導を心がけたい。今後、2年生対象の「インターンシップ」など各種行事を通して進路に対する意識を高めていきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生を対象に 7月にアンケート調査 A: 52% B: 44% C: 4% D: 0% 評価: A・Bあわせて96%	第1回学校評価アンケート(生徒)の結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、96%となった。昨年同期の結果94%より向上している。1・2年生の朝学習では基礎学習を中心に実施、3年生は就職・進学の進路別に問題集をおこなっている。新型コロナウイルス感染症の影響で実施が遅くなり各学年で運営方法を変えている。3年生では休業前に問題集を配布することが出来たため例年より進捗が早まっているため、新たに問題集を追加している。今後、就職・進学試験に向けた面接指導などの充実には全教員が協力し取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	○このような状況であるにもかかわらず、地元を中心に例年と変わらず、多くの求人があるのはありがたい。さらに、地域に貢献する人材を育成してほしい。 ○休校中に教科で動画配信など、学習支援の努力は理解できた。しかし、生徒一人一人の通信環境には差があるので、難しい面がある。 ○コロナで多くの行事が中止になっているが、修学旅行やインターンシップなど実施する道はないか探してほしい。できることはなるべく子供たちのために行うことを望む。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	○3年生の就職については1ヶ月遅れの日程で例年と同じように指導中である。資格取得については今後受験可能なものは補習なども行い、全力で応援する。 ○動画配信や課題学習で指導不十分な内容は夏休みの短縮や土曜授業で補ってきた。現在は感染対策をしながら対面授業が可能となり、例年の学習指導に戻していきたい。 ○インターンシップについては教育効果の高い取組なので、企業、保護者等の意見を拝聴しながら実施の方向で検討していく。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新入大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰闘賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県総体6月末集計結果 点 男子 点 位 女子 点 位 評価:	新型コロナウイルス感染症の影響により、県高校総体が中止となった。(0点) 6月に各部活動の登録を行ったところ、運動部加入率は86.4%であり、例年どおりである。今後の各部の活躍を期待したい。
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 66% B: 33% C: 1% D: 0% 評価: A・B合わせて99%	文化部加入者対象アンケートの結果は、AまたはBと答えた生徒の割合は、99%と非常に高い結果となった。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で全国高校総文がWEB上での発表となり、美術・デザイン部の作品出品が行われた。コンピューター部が参加する大会は中止となった。 10月末に延期となった羽工祭も含め、発表の場は少なくなるかもしれないが、代替の大会等で日頃の成果が出せるように働きかけていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 60% B: 35% C: 5% D: 0% 評価: A・B合わせて95%	生徒対象アンケートの結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、95%と前年同期の結果とほぼ同数の高い結果となっている。(昨年は96%) 新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は生徒会行事が何もできていないが、これまでのイメージや期待値が含まれていると考えられる。2学期の学校祭や球技大会では生徒たちが満足できるように指導していきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を行い、生徒との相互理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 77% B: 21% C: 2% D: 0% 評価: A・B合わせて98%	生徒対象アンケートの結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、98%と非常に高い結果となり、判定基準を大きく上回った。朝のあいさつ運動や校内巡視を毎日行って、生徒に声かけをしている。また、規範意識向上のため、通学自転車の施錠の徹底と校内におけるスマホ(携帯電話)の使用禁止の徹底を図った。これらの様々な取組の中で、生徒の規範意識が高まったものと考えられる。コロナ禍でマスクを着用しているため、生徒の表情が見えず、コミュニケーションにおける難しさを感じている。対話を通して意識向上に向けて日々の取組を進めていきたい。
	⑤ 保健だよりや掲示物、集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 59% B: 35% C: 5% D: 1% 評価: A・B合わせて94%	生徒対象アンケートの結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、94%と前年度(91%)よりも高い結果となった。今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、毎朝の検温、マスクの着用等を丁寧に指導した結果と考えられる。2学期以降については残暑の厳しい時期も考えられ、熱中症に注意しながらマスクの着用を指導していきたい。さらに保健だより等で健康管理について生徒各個人の意識向上に常日頃から取り組んでいきたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 67% B: 29% C: 3% D: 1% 評価: A・B合わせて96%	生徒対象アンケートの結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、96%と前年同期と同数の高い結果となった。 「一日一善運動」や「ボランティア清掃」の生徒の取組状況から、社会貢献の大切さを十分理解していることが確認できる。 今後は社会貢献活動を日々の生活の中で、自ら主体的に実践できる力を身に付けさせるように育てていきたい。
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 63% B: 32% C: 4% D: 1% 評価: A・B合わせて95%	生徒対象アンケートの結果、AまたはBと答えた生徒の割合は、95%と前年度同期を少し上回る高い結果となった。今後も保健指導課の清掃活動や生徒会課の一日一善運動に加えて、生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について生徒の意識高揚と実践力を培っていきたい。
4 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善をある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	職員対象に 7月にアンケート調査 A: 36% B: 50% C: 12% D: 2% 評価: A・B合わせて86%	職員対象のアンケートの結果、AまたはBと答えた職員の割合は、86%が改善を行えたと回答した。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。特に、業務の平準化と職員の健康管理を推進して、働き方改革を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			○ホームページに「羽工だより」や「羽工新聞」すぐアップされるようになり、昨年より改善されていると思う。 ○駅の駐輪場で自転車の置き方が悪いことがあるので、指導を徹底してほしい。 ○駅でマスクなしの高校生が密になっている。校内だけでなく外でもマスク着用等の意識を持たせてほしい。	
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策			○自転車マナーについてはPTAと連携した指導も計画している。羽作駅の駐輪マナーについてはLHや集会等でルール遵守の意識向上を図るとともに定期的に現地で指導を行う。 ○新型コロナウイルス感染防止対策はこれまで指導してきたことを再度、確認・指導していきたい。特に学校外での感染予防については担任の指導や昼の放送などで生徒に注意喚起する。	